

日本遺産認定 出雲國たたら風土記

4月25日に発表された2016年度「日本遺産」に、島根県雲南市・安来市・奥出雲町が共同申請した「出雲國（いずものくに）たたら風土記」鉄づくり千年が生んだ物語」が認定されました。優れた鉄が生産されただけでなく、原料の砂鉄採取跡地を棚田に再生して「多米、出雲そばなどの食文化を生んだこと、鉄の流通によって栄え、茶道、神楽や民謡などの文化も育み、現在も受け継がれていることなどが評価されたものです。

文化財を「画」としてつないだストーリー

町など）、広島県呉市「鎮守府横須賀・呉・佐世保・舞鶴」日本近代化の躍動を体感できるまち」が認定されています。

「世界遺産」はユネスコが、普遍的価値のある文化財を「点」として認定し、その保護が主な目的になつています。一方、「日本遺産」は文化庁が、地域の複数の遺産を「面」としてつないだストーリー自体を認定するもので、観光客の誘致など地域活性化が目的で、具体的な予算支援もあります。

文化庁は2020年の東京五輪までに100件程度にまで増やすとしています。

「日本遺産」として認定されるストーリーには、単一の市町村内



菅谷たたら高殿



田部家土蔵群



金屋子神社

で完結する「地域型」と、複数の市町村にまたがって展開する「リアル型（ネットワーク型）」のふたつがあります。

文化庁は、ストーリーの内容について、「歴史的経緯や、地域の風土に根ざし世代を超えて受け継がれている伝承、風習等を踏まえたストーリーであること。ストーリーの中核には、地域の魅力として発信する明確なテーマを設定の上、建造物や遺跡・名勝地、祭りなど、地域に根ざして継承・保存がなされている文化財にまつわるものが据えられていること。単に地域の歴史や文化財の価値を解説するだけのものになっていないこと」という3点を定めています。

●安来市8件——シラサギに乗って桂の木に降り立った、たたら神様を祭った「金屋子（かなや）神社」（安来市広瀬町）、和銅博物館の「たたら製鉄用具」（同市安来町）、どじょうすくい踊りとともに全国に知られている「民謡安来節」など。

●奥出雲町15件——「玉鋼（たまがね）製造（たたら吹き）伝承」（奥出雲町大呂）、「たたら製鉄及び棚田の文化的景観」、鉄師頭取の「櫻井家・絲原家の住宅」、国名勝・天然記念物の大溪谷「鬼舌振（おにのしたぶる）」など。

世界で唯一の たたら製鉄の炎

奈良時代の天平5年（733年）に編纂された『出雲国風土記』の、仁多郡（現在の奥出雲町にあたる）の条に、三所（みどころ）・布勢（ふせ）・三沢（みざわ）・横田（よこた）は堅く、尤（もつと）も雑具を造るのに堪（た）える」とあります。

このことは、島根県東部の出雲地域では、およそ1400年前から盛んに製鉄が行なわれて



菅谷たたら山内

いたことを物語っています。江戸時代後半から明治にかけての最盛期には、全国のおよそ8割の鉄が、出雲を中心とした中国山地の麓でつくられていたとのことです。

しかし、高炉を用いる近代洋式製鉄により安価な鉄が大量に流通するようになると経営が行き詰まり、1925（大正14）年、たたら製鉄はいったん途絶えます。1931年（昭和6年）の満州事変を機に戦争が拡大すると、軍刀の需要に應えるために復活しましたが、それも終戦で廃止。その後、1977年（昭和52年）、日本美術刀剣保存協会（日刀保）が、日本刀をつくるのになくてはならない玉鋼生産と、技術保存のため、奥出雲町大呂に残っていた戦時中のたたらを「日刀保たたら」として復活させ、毎年冬に数回操業しています。奥出雲町は「世界で唯一たたら製鉄の炎が上がる町」として知られています。

「たたら製鉄」とは、粘土で築いた炉に、砂鉄と木炭を交互にくべながら燃焼させ、鉄を得る日本古来の製鉄技術のこと。出雲で採れる良質な砂鉄と木炭を、炉で三昼夜もの間、燃焼させることにより純度が高く、錆びることのない鉄をつくり出します。

中国山地は不純物の少ない優れた真砂（まさ）砂鉄の産地で、製鉄用の燃料となる木炭をつくるための山林資源にも恵まれていました。

たたら製鉄の原料となる砂鉄は江戸時代中期から、山を切り崩し水路に流すという「鉄穴（かんな）流し」という方法で採取するようになりまし。まず山裾に点々とため池をつくり樋（水路）を掘り、冬の雪がもたらす豊かな水を利用して、水路と池に大量の水と削った土砂を流し、砂より重い砂鉄を採るという「比重選鉱法」と呼ばれる方法です。

今、鉄穴流しの跡地には広大な

棚田が拓かれ、池や水路は灌漑施設として活用され、ブランド米「奥出雲仁多米」が生産されています。また、木炭を生み出す広大な山林は、永続的に循環できるような約30年周期で輪伐しながら保全されてきました。山間地には、山内（さんない）と呼ばれる、製鉄場とそこで働く人々の住居が一体となつ



「日本棚田百選」に選ばれた奥出雲町の棚田（大原新田）

た、100人〜200人規模の小さな鉾山町がありました。雲南市吉田町には、「菅谷たたら高殿（製鉄所跡）」と、その周囲の山内の様子が日本で唯一現存しています。

「今もなお、この地は先人がたたら製鉄千年の歩みの中で生み出した特徴豊かな地域の文化と産業、自然景観に満ち溢れ、終わることのない物語を紡ぎ続けています」（鉄の道文化圏推進協議会公式サイトより）。

（交易場 修）

《後記》
「ゆう科学通信」は皆様からのご意見、情報を礎に発信していきます。
ご投稿はメール、ファクスでお願いいたします。

